

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名	可児工業高等学校 運営協議会	(第3回)
2 開催日時	令和6年1月19日(金)	
3 開催場所	可児工業高校 会議室	
4 参加者	委員	大杉 守平 様 中恵土自治会連合会会長 古山 友生 様 可児市立図書館長 (欠席) 各務 真弓 様 可児市多文化共生センター事務局長 前山 香織 様 元本校PTA役員 今井田 みゆき 様 元本校PTA役員 日比野 光伸 様 本校同窓会副会長

学校側	中西 竜也 校長 古田 光 事務長 庄司 幸宏 教頭 熊崎 俊介 教務主任 三輪 武 生徒指導主事 林 貴康 進路指導主事 宮田 忠夫 工業部長
-----	--

### 5 会議の概要

#### (1) 地域の担い手育成総合戦略事業校内成果発表会を視聴しての感想

- 意見1 これまで抱いていた可児工業高校のイメージを変えるほどレベルの高い発表内容であった。特に中長期インターンシップでは、地元企業における専門的な仕事を実際に体験することにより、自らの進路先について考えるよい機会だと分かった。
- 意見2 海外から材料が調達できない、人材不足といった企業が直面している問題点についてデータを示しながら明確にした上で、今後産業界と学校が連携を強化していこうとする試みがよく伝わってきた。予算面の問題もあるが、今回の取り組みが今後も継続することを期待したい。
- 意見3 県での発表に向けた改善事項として、スライドの文字数を減らして視覚的に見やすくするとよい。また、発表内容を精選するとともに、聞き手が理解しやすいようにスライドをポインタで示しながら説明すればより充実したプレゼンテーションになる。

#### (2) 授業参観の感想

- 意見1 今回機械科3年の課題研究発表会を参観させていただき、工業高校ならではの

の特色ある学びを知ることができた。テーマの設定から計画立案さらに製作に至るまでの一連の流れを生徒たちが主体的に取り組む姿に感銘した。地元随一の歴史ある工業高校として今後の発展を期待したい。

意見2 生徒たちはそれぞれの課題に対して試行錯誤しながら、グループで取り組むことの大切さを体験できたと思う。技術が高度に進歩する中においても、ものづくりの基礎基本をしっかりと学び、チームで協働してより良い製品を作ろうとする精神を培うことは大切である。可児工業高校では、そうした工業人として求められる土台作りをしていてもらいたい。

意見3 これまで様々な授業を参観させてもらったが、工業高校における生徒の力によるものづくりは大変魅力的に映った。生徒たちは失敗と振り返りを繰り返しながら自分たちで設定した課題を楽しみながら取り組んでいた。

### (3) その他意見

意見1 今年度から始めた「学校満足度アンケート」は良い取り組みだと思う。是非来年度以降も継続してほしい。授業を中心とした学校生活の改善が図られ生徒の満足度が上がれば、入学希望者の増加にもつながることが期待できる。

意見2 今年度の転学者数は昨年度に比較して少ない。今年度は昨年度の状況を踏まえ学校として何か対策をしたのか。← 特に大きな取り組みをしたわけではないが、昨年度は新型コロナウイルスが第5類になり、通常の学校生活への適応が困難になったことが原因の一つとして考えられる。

意見3 部活動全員入部から自由参加となり、部活動に所属する生徒数が減少し学校の活力がなくなっていくのではないかと心配である。← 部活動への自由参加は全国的な流れである。今後、部活動は地域移行されていくことになるが、学校の活力が失われないように対策を立てる必要がある。

意見4 中学校ではいじめ等が原因で教室に入れない生徒が多くなっている。保健室登校だけでなく別室登校の対応をしているのが現状である。不登校傾向のある生徒への支援について、具体的にどのような対応をしているのか。  
← 生徒の相談や希望をていねいに聴き取り、必要に応じてスクールカウンセラーやスクール相談員、場合によっては外部機関とも連携しながら対応している。職員間で情報共有を図りながら、組織的に対応することになっている。

## 5 会議のまとめ

- ・県指定の「地域の担い手育成総合戦略事業」の生徒の発表に対して、委員からは賞賛の声をいただく一方で、より充実した発表内容となるように様々な提言や助言をいただいた。産学連携や地域とのつながりを今後もより一層強化し、地域や地元産業の発展に貢献できる人材の育成に努めていきたい。
- ・今回は機械科3年の課題研究発表会を参観していただき、工業高校ならではの特色ある授業について理解を深めていただけた。委員の意見から、自分たちで設定したテーマに対し、試行錯誤を繰り返しながらお互いが切磋琢磨してものづくりをすることは、

まさに学習指導要領にある主体的、対話的で深い学びの実践に他ならないことを改めて認識した。本校の魅力アップのため各学科の課題研究発表会の取り組みやその成果などを地域や地元中学校に広く発信していくことが今後の課題である。

- 生徒を取り巻く環境の変化や生徒自身が多様化している中で、学校生活に適応できない生徒に対して具体的にどう支援すべきかについて問題提起がなされた。対象となる生徒に対して、生徒支援部の教育相談が中心となりながら、関係職員や外部機関とも連携を図りながら、個に応じた指導支援を専門的な見地から推進していくことが求められる。そのためには、職員一人一人が生徒の特性を理解し、生徒にどうアプローチを図り支援を進めるべきかについて研修を行う必要がある。